

# 楠木正成 の 年表

1294年 近江国(現在の滋賀県)に生まれる。

1320年 南朝の大覚寺統の皇族。後醍醐天皇の忠臣となる。

1331年 後醍醐天皇が鎌倉幕府に対して挙兵を開始。正成は天皇を支援する。

1332年 正成は後醍醐天皇が策後の地に逃れる際、中護役として同行。

1333年 正成は吉野にて後醍醐天皇を擁立し、南朝の基盤を築く。後に鎌倉を攻撃。

1336年 楠木正成は敵の大軍に対して「早城」などで防戦。楠木軍は教度にわたる激戦を繰り返す。

1338年 正成は攻撃を受け、最後の抵抗を試みるも、ついに降伏せざるを得なくなる。

1339年 正成、戦傷が重く、遂に死亡。享年46年。



後醍醐天皇はついに笠置山で挙兵をするが楠木正成も下赤坂城で挙兵する。

後醍醐天皇の籠、たゞ笠置山の方は三千程の兵力だ、だが、対する幕府方の軍勢は七万五千の大軍だ、たとえわれ、圧倒的に不利な状況の中、笠置山が天然の要害だ、たゞ



ともあり後醍醐天皇たちはなんとか持ちこたえていたが、幕府方が山に放火したことで天皇方は総崩れ。後醍醐天皇や近臣たちは幕府方に捕られていたが、後醍醐天皇の皇子、護良親王は何とか正成が立て籠もっている下赤坂城へと逃げた。

楠木正成についての理解が深まることで、戦国時代やその前後、天皇との関係などの複雑な日本の歴史や文化にも触れることができ、非常に興味深いテーマでした。

数々の功績、その影響を感じ取ることは、歴史を学ぶ上ですごく重要な要素だと思いました。

# 南北朝を代表する武将 楠木正成

楠木正成は後醍醐天皇と出会い、たことから歴史の表舞台へと姿を現すこととなった。

正成は僧などの仲介で後醍醐天皇と出会い、たと言われている。後醍醐天皇は正成を頼りにしていたとも言われている。

また、「軍記物語の「太平記」では、二回目の倒幕計画がバレた後醍醐天皇は笠置山に逃げた後、挙兵することになった。たがそんなある日夢を見たそう。夢の中で南向きに枝を、

か伸びた大きな木がありその下に官人が位の高い座、ていたが上座には誰も座、ていなかった。たそうするとどこかから音楽が来、て後醍醐天皇に「その席はあなたのために設けられた席だ」と言い空に昇、てい、たそう。夢からさめた後醍醐天皇はどんな意味の夢が考えたとして「木」に「南」と書いたら「楠」になる事に気付き、これは神のお告げだということだ。楠木といふ人を探させたそう。

# 楠木 正成

まこ しげ

発行  
野原 玲奈

8月22日

## 紙幣にも なつた 武将

楠木正成はその忠義、勇気、策略により、て、日本の歴史に名を刻み、後の時代においても武士の理想像として崇拝されました。

特に、能や歌舞伎などの芸能にも多く取り上げられ彼の物語は今の時代でも人気が続いています。

銅像としても東京都に建、ています。

## 最後の戦いと死

彼は千三百六十二年(貞治元年)に北朝の攻撃に遭い、最後まで抵抗しましたが、最終的には敗北し、壮絶な戦死を遂げました。正成の死は南朝の忠義の象徴として語り継がれています。

このように彼の忠義心や戦術は、後世に非常に大きな影響を与えました。

正成のいた下赤坂城は万を超える大軍に対して五百程の兵力で守、てたそう。正成は幕府軍が城壁に来ると弓矢で応戦の輝を作、て敵兵が登るとそれを切り落とすし岩などを投げつける。という正成の策により、てほんとか奮戦したが長期戦は無理だと判断した正成は城に放火して脱出したそう。

## 紙幣にも なつた 武将

楠木正成はその忠義、勇気、策略により、て、日本の歴史に名を刻み、後の時代においても武士の理想像として崇拝されました。

## 編集 後記

## 正成の策

正成のいた下赤坂城は万を超える大軍に対して五百程の兵力で守、てたそう。正成は幕府軍が城壁に来ると弓矢で応戦の輝を作、て敵兵が登るとそれを切り落とすし岩などを投げつける。という正成の策により、てほんとか奮戦したが長期戦は無理だと判断した正成は城に放火して脱出したそう。